

平成 28 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：CRC 宇宙線将来計画研究会

英文：CRC workshop for future plans in cosmic ray research

研究代表者 名古屋大学宇宙地球環境研究所・教授・伊藤好孝

参加研究者

東京大学宇宙線研究所・所長・梶田隆章
大阪市立大学大学院理学研究科・准教授・荻尾彰一
東京大学宇宙線研究所・教授・中畑雅行
大阪市立大学大学院理学研究科・教授・神田展行
東京大学宇宙線研究所・教授・塩澤真人
千葉大学理学部・教授・吉田滋
名古屋大学太陽地球環境研究所・講師・さこ隆志
名古屋大学太陽地球環境研究所・教授・田島宏康
東海大学理学部・教授・西嶋恭司
東京大学宇宙線研究所・教授・手嶋政廣
信州大学理学部・教授・森正樹
山形大学理学部・准教授・中森健之、
茨城大学理学部・教授・吉田龍生、他CRC会員一同

研究成果概要

本年度も、昨年度に引き続き、CRC 内で将来計画を議論するための場として、CRC 将来計画タウンミーティングを開催した。本年度の CRC 実行委、および将来計画検討小委により策定された方針では、今後の 2 年間で 3 回のタウンミーティングを開催し、1 回目では、マルチメッセンジャーをキーワードとした隣接分野とも連携した多粒子観測の将来計画、2 回目では地下実験の将来計画として、分野をまたがって暗黒物質探索、二重ベータ崩壊探索実験の将来計画、3 回目は特に萌芽的研究を広く公募した議論を行う、という事になった。これを受けて、今年度の CRC 将来計画研究会は、まず第一回目のマルチメッセンジャーを主眼に 2017 年 3 月 24 日（金）、25 日（土）の両日に柏キャンパスメディアホールで開催された。出席者は約 70 名であった。トピックスは「突発的天体現象のマルチメッセンジャー観測」

「銀河系内 PeVatron のマルチメッセンジャー観測」「ダークマター探索のマルチメッセンジャーアプローチ」の 3 種とし、レビュー講演も含め講演題目・講演者は基本的に将来計画検討小委が策定する形式としたが、幾つか CRC 会員からの講演も公募して加えた。PeVatron 探索のテーマでは、ALPACA 計画と関連の深い HAWC-South 関係者の外国人研究者を招き、英語でのセッションとした。



整理番号 J02

